

分析する評価事業に対する目的と手段を数値化し目標設定
※「〇〇推進事業」について設定

【成果指標】・・・分析する事業の成果(=目的)を数値化したもの
【活動指標】・・・成果に導くための行政の活動を数値化したもの
※個別事業をまとめた事業について設定するため、数値化できない事業も多い

2. 指標設定

成果指標	指標名	満足度	目標年度	H27	設定理由			
	数値	50%以上			総合計画/後期基本計画において、基本施策の目標としているため			
活動指標	指標	a	相談数	b	給付数	c	説明会の開催数	d
	数値	目標	1000件	目標	15000件	目標	4回	目標

上記で設定した指標の実績
※上段=各年度の実績、下段=目標値に対する達成率

成果指標の実績

活動指標の実績

3. 実績(上段・実績/下段・達成率)

成果指標名	単位	H23	H24	H25
満足度	%	32%	34%	41%
		64%	68%	82%

活動指標名	単位	H23	H24	H25
a 相談数	件	500件	800件	700件
		50%	80%	70%
b 給付数	件	12,000件	13,000件	13,500件
		80.0%	86.7%	90.0%
c 説明会の開催数	回	2回	3回	4回
		50%	75%	100%
d				

4. 課題と対応

課題
社会情勢の変化に伴い、市民ニーズが複雑かつ多岐にわたっている。
対応(改善点等)
★★計画に則り、計画的な事業展開を

「〇〇推進事業」の決算額及び予算額
※H26年度は、6月補正を含んだ予算現額

過去3年間及びH26年度を踏まえた担当課におけるH27年度の予算の方向性
※確定ではない
※方向性:「増額」、「前年並」、「減額」、「予算措置なし」

5. 事業費・・・H23～H25(決算額)、H26(予算現額)

決算額(千円)	H23	H24	H25	H26
うち経常経費	5,851	5,862	7,474	7,800
国費	3,423	3,295	3,485	5,100
県費	1,633	1,750	2,242	1,800
市債	795	817	367	900
その他				
一般財源	3,423	3,295	4,865	5,100
うち経常	3,423	3,295	3,845	5,100
事業費に係る人件費	16,500	16,325	15,463	9,500
事業費に係る人役	3.76	3.79	3.60	2.18

6. H27年度予算の方向性
方向性
減額
理由
★★計画策定事業の終了により、事業費が減額となる。また、行政改革の観点から需用費等の削減に努めるため。

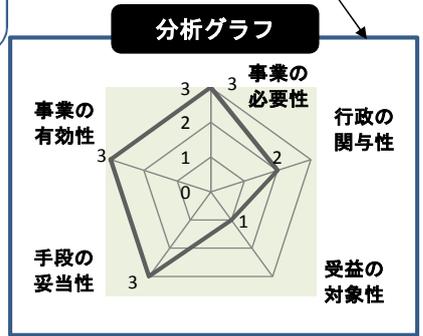
評価事業の分析評価
※基準は別紙を参照

事務事業に係わる人件費を推計したもの
※簡易な算定のため参考程度
※決算書の職員給与管理事業の決算額とは算定方法が異なるため一致しない

左記分析をグラフで表示

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 住民福祉の向上のために現時点では必要な事業であるため。
② 行政の関与性	責任領域の精査	2 相談事業については、事業所が実施主体となった取組が期待できるため。
③ 受益の対象性	事業対象の確認	1 △△に限定した事業であるため。
④ 手段の妥当性	活動指標の判断	3 目的を達成するために適切な手段であると判断できるため。
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3 目標に対する達成率も高く、有効性は高いと判断できるため。



担当部署で評価・分析した事務事業を、内部評価委員会において評価。
「事業の方向性」と「評価内容」を付している
※事業の方向性・・・「拡充」、「継続」、「見直し」、「縮小」、「廃止」

8. 内部評価委員会評価(委員会評価)

事業の方向性	評価内容